



平成25年度川の国埼玉検定（中・上級編）

問 題

（指示があるまで開かないください。）

受検にあたっての注意事項

- 1 問題には選択肢から一つだけ解答するものと、複数解答する問題があります。複数解答する場合は、解答欄が解答数だけあります。問題文をよく読んで解答してください。一つの解答欄に二つ以上答えを記入したものや無記入のものは誤りとして扱います。
- 2 問題は30問ありますが、複数解答があるため、解答数が35あります。上級合格には正解の解答数が28、中級合格には正解の解答数が21必要です。
- 3 解答時間は60分です。
- 4 解答用紙への記入は、すべてHB程度の濃度の鉛筆またはシャープペンシルで解答してください。
- 5 解答用紙に記入したものを訂正する場合は、記入の跡が残らないように、消しゴムできれいに消してください。

問1 埼玉県の川に関する記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 埼玉県内で河川が占める面積の割合は県土の3.9%で、その割合は都道府県の中で日本一である。
- 2 吉見町から鴻巣市にかかる御成橋付近の荒川の川幅は2,537mで、その長さは日本一である。
- 3 利根川と荒川は、かつて合流していたが、自然の作用によって流れが変わり現在は別々の流れとなっている。
- 4 埼玉県内には、二級河川はない。

問2 埼玉県の川の歴史に関する記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 利根川水系と荒川水系を切り離すため、荒川は寄居町で締め切られ、和田吉野川・市野川・入間川筋を本流とする流れに変わった。
- 2 荒川の流れを変える工事により新たな水を受け入れることになった和田吉野川・市野川の周辺では水害が増え、堤防や水塚などがつくられた。
- 3 入間川は、水量が多く流れも緩やかであったことから、古くから舟運が行われており、秩父市や周辺で切り出される材木の運搬にも利用されていた。
- 4 昭和22年のカスリーン台風による大雨・大洪水は、大正・昭和期を通じて最大の水害だったが、亡くなった人はなかった。

問3 用水の歴史に関する記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 見沼代用水は、見沼のため井に代わる用水であるが、利根川から水を引いてつくられた。
- 2 見沼代用水の長さは、延べ80 kmに及ぶ。
- 3 葛西用水の開発は、見沼代用水よりも新しい。
- 4 葛西用水は、利根川の水を取り入れてつくられた用水で、羽生市から東京都葛飾区まで送られた。

問4 埼玉県の川になじみのある祭りに関する記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 寄居玉淀水天宮祭（寄居町）
→戦国時代を再現し、荒川の玉淀河原で大砲の砲声が鳴り響く。
- 2 秩父川瀬祭（秩父市）
→荒川の清流で「神輿洗いの儀式」が行われる。
- 3 出来島のあばれみこし（熊谷市）
→利根川の中に立てたとんぼからダイビングする奇祭。
- 4 大杉神社のあばれみこし（熊谷市）
→利根川に入り神輿の上で猛者たちがもみ合う。

問5 平成の名水百選に選ばれた埼玉の名水4か所の名称と所在地の組み合わせのうち、正しいものを一つ選びなさい。

【名称】	【所在地】
1 毘沙門水	朝霞市
2 武甲山伏流水	横瀬町
3 元荒川ムサシトミヨ生息地	行田市
4 妙音沢	新座市

問6 埼玉県に生息する主な魚のうち、特定外来生物に指定されている魚を次の中から二つ選びなさい。

- | | | |
|-------------|---------|---------|
| 1 カダヤシ | 2 カムルチー | 3 ソウギョ |
| 4 タイリクバラタナゴ | 5 ハクレン | 6 ブルーギル |

問7 ムサシトミヨに関する記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 ムサシトミヨは、冷たい湧水を水源とする細流で生息する淡水魚である。
- 2 ムサシトミヨの成魚の体長は、5 cmほどである。
- 3 ムサシトミヨは、オスが巣作りから子育てまでをする。
- 4 ムサシトミヨは、近年の川の水質改善により、県南の河川でも見られるようになっている。

問8 埼玉県では、県内に生息する野生動植物のうち絶滅のおそれのある種を県レッドデータブックに掲載し、その中でも特に保護が必要な種を「県内希少野生動植物種」に指定している。次に示す指定種の中で、河川や池沼、河原、湿地に生息している動植物を二つ選びなさい。

- | | | |
|----------|-----------|------------|
| 1 アオネカズラ | 2 イモリ | 3 キタミソウ |
| 4 コクラン | 5 ソボツチスガリ | 6 チチブイワザクラ |

問9 川底に住んでいる水生生物を調べることで川の水質を判断する「水生生物による水質判定」が広く行われている。次の水生生物のうち、きれいな水（水質階級Ⅰ）の指標となる生物を二つ選びなさい。

- | | | |
|----------|---------|----------|
| 1 カワニナ類 | 2 カワゲラ類 | 3 シマイシビル |
| 4 ゲンジボタル | 5 ヘビトンボ | 6 ミズカマキリ |

問10 川底に住んでいる水生生物を調べることで川の水質を判断する「水生生物による水質判定」が広く行われている。次の水生生物のうち、ややきれいな水（水質階級Ⅱ）の指標となる生物を二つ選びなさい。

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 1 アメリカザリガニ | 2 アミカ類 | 3 オオシマトビゲラ |
| 4 タニシ類 | 5 ヒラタドロムシ類 | 6 ミズムシ |

問1 1 河川の名称や構造に関する記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 河川の下流から上流を見たときに、右側が右岸であり左側が左岸である。
- 2 堤防がある河川では、堤防に挟まれた川がある方を堤外、家や田畑がある方を堤内という。
- 3 河川の中で、深くて流れの緩やかなところは「瀬」と呼ばれ、浅くて流れの速いところは「淵」と呼ばれている。
- 4 河川の底質で、「瀬」には砂や泥が多く、「淵」には礫が多い。

問1 2 河川法による河川の区分に関する記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 国土保全上または国民経済上特に重要な水系として政令で指定されたものを一級水系といい、この水系内で、国土交通大臣が指定した河川を「一級河川」という。
- 2 一級水系以外の水系にある河川のうち、都道府県知事が指定した河川を「二級河川」という。
- 3 一級河川及び二級河川以外の河川で、二級河川の管理に準ずるとして都道府県知事が指定した河川を「準用河川」という。
- 4 河川法の適用や準用を受けない河川を「普通河川」という。

問13 河川の自浄作用に関する記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 汚濁物質が河川を流下するにつれて減少することを、自浄作用または自然浄化作用という。
- 2 河川の汚濁の原因となる主な物質は、無機物である。
- 3 河川の汚濁物質には、水に溶けている溶存物質と、粒子状で浮遊している懸濁物質がある。
- 4 河川の汚濁物質が減少する浄化作用のうち、生物学的浄化には、水流があり酸素が十分あることが重要である。

問14 河川の環境基準に関する記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 環境基本法において、水質の環境基準は、「人の健康を保護し及び生活環境を保全するうえで維持することが望ましい基準」とされている。
- 2 生活環境項目の環境基準は、利用目的に応じて5つの水質類型を設け、それぞれの基準値が定められている。
- 3 健康項目の環境基準は、一級河川に適用されるものと一級河川以外の河川に適用されるものの2つの基準値が定められている。
- 4 健康項目の環境基準は、重金属類、有機塩素系化合物、農薬など70項目が設定されている。

問15 河川の環境基準に関する記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 河川におけるpHの環境基準値は、類型により、6.5以上8.5以下の基準値と、6.0以上8.5以下の基準値が設定されている。
- 2 河川的生活環境項目として定められているSSは、水の外見上のきれいさを決める最大因子であり、河川では主にプランクトンやその死骸が多く占めている。
- 3 河川的生活環境項目として定められているDOは、水中に溶解している酸素の量をいい、飽和溶存酸素量は、水温の上昇とともに値が大きくなっていく。
- 4 河川的生活環境項目として定められている大腸菌群数は、公衆衛生上、病原菌の存在する可能性を示す指標であり、糞便由来の菌のみを検出する。

問16 BODに関する記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 BODは、水中の有機物などが微生物の働きによって分解されるときに消費される酸素の量をいう。
- 2 BODの値が小さい河川水では、溶存酸素が欠乏しやすくなり、悪臭の発生等が起こる。
- 3 BODの測定は、20℃の暗所で5日間静置した時に減少する溶存酸素の量を計測する。
- 4 BODは、河川の環境基準項目に定められている。

問17 埼玉県の河川環境に関する記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 平成24年度の環境基準点全94地点のBOD年度平均値を平均すると2.4mg/Lであり、アユがすめる水質の目安である3.0mg/Lを下回った。
- 2 平成24年度は環境基準点がある44水域中40水域でBODの環境基準を達成し、達成率は91%と過去最高であった。
- 3 BOD環境基準達成率は、近年大幅に上昇しており、平成20年度以降は90%前後を推移し、全国平均と同じレベルになっている。
- 4 河川等で発生した異常水質事故は、最近10年間、毎年200件以上発生しており、平成24年度は、油類の流出の件数が一番多かった。

問18 生活排水に関する記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 埼玉県では平成23年3月に生活排水処理施設整備構想を策定し、平成37年までに生活排水処理率を100%とすることとした。
- 2 埼玉県の河川の汚れの一番の原因は家庭からの生活排水であり、原因別の割合では約7割を占めている。
- 3 埼玉県汚水処理人口普及率のうち、最も多い割合を占めている生活排水処理施設は、公共下水道である。
- 4 下水処理場では、家庭からの生活排水のみを処理している。

問19 浄化槽に関する記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 浄化槽法では、現在、トイレからの汚水だけを処理する単独処理浄化槽と家庭内から排出する汚水のすべてを処理する合併処理浄化槽の2種類の設置が認められている。
- 2 単独処理浄化槽から合併処理浄化槽に転換することで、河川への汚れを約1/20に減らすことができる。
- 3 浄化槽からの放流水は、塩素剤で滅菌消毒し、衛生的にも安全な水として放流する構造になっている。
- 4 浄化槽の保守点検及び清掃を適正に実施している場合には、毎年1回の定期検査（浄化槽法第11条検査）は免除される。

問20 埼玉県の水の再生の取組に関する記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 埼玉県では、平成19年度に策定した水再生基本方針に基づき、行政と地域が協働して水再生に取り組んでいる。
- 2 水川づくり県民推進事業には、地域総ぐるみでの生活排水対策の取組として、家庭での一斉取組や水川清掃活動などがある。
- 3 水辺再生100プランでは、平成20年度からの4年間で100箇所の水再生に取り組んだ。
- 4 水のまるごと再生プロジェクトは、現在、10の水再生で実施中である。

問21 次を示す河川の中で、川のまるごと再生プロジェクトの実施箇所ではないものを二つ選びなさい。

- | | | |
|----------|-------|-------|
| 1 大落古利根川 | 2 高麗川 | 3 笹目川 |
| 4 元小山川 | 5 柳瀬川 | 6 横瀬川 |

問22 共助による川の再生に関する記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 共助による川の再生とは、地域住民や団体同士の支え合いや助け合い活動により川の再生を推進していくものである。
- 2 県は、川の国応援団を中心とした地域の自立自尊の活動を支援し、共助による川の再生県民運動を拡大する。
- 3 川の再生地域交流会では、川の再生活動団体が企画立案から運営までを実施している。
- 4 平成24年度の川の再生交流会は、不老川などの4会場で実施した。

問23 川の国応援団に関する記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 川の国応援団は、平成23年度から「彩の国水すましくラブ」と「水辺のサポーター」を統合して始まった制度である。
- 2 川の国応援団は、川の再生活動を行っている5人以上の団体であれば登録できる。
- 3 川の国応援団の支援は、川の国応援団サポートデスクである水環境課・水辺再生課・各環境管理事務所・各県土整備事務所で受けることができる。
- 4 川の国応援団の登録団体数は、平成25年9月末で500を超えるが、3市町では登録団体がない。

問24 川の国アドバイザーに関する記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 川の国アドバイザーは、川の再生活動のリーダー役であり、川の国埼玉検定で上級又は中級に合格された方が登録されている。
- 2 川の国アドバイザーの登録者数は、平成24年度末現在で47名である。
- 3 川の国アドバイザーの利用は、川の国応援団登録団体に限らず、広く川に関する活動している団体等が利用できる。
- 4 川の国アドバイザーの派遣を受けた場合、講師の派遣料や謝金は一切かからない。

問25 五感による河川環境指標に関する記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 五感による河川環境指標は、特別な器具等や技術を用いた調査が必要となるものではなく、観察することで人の五感から得られる情報をもとに評価する指標である。
- 2 五感による河川環境指標は、BODなどでは表現できない河川の環境を体現するものであり、川の再生活動に取り組む人々の活動の成果を実感、肌で感じてもらう指標である。
- 3 五感による河川環境指標は、実際に川で観察しながら、五感をとおして、14項目を4段階で評価する。
- 4 五感による河川環境指標は、BODなどでの河川環境の評価をやめ、新たな河川環境の評価基準として取り入れられたものである。

問26 五感による河川環境指標で、必須項目となっているものを一つ選びなさい。

- | | |
|------------|---------|
| 1 水の澄み具合 | 2 川底の状況 |
| 3 川や周辺において | 4 自然の音 |

問27 埼玉県の上水道・工業用水道に関する記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 埼玉県の水道の水源別割合のうち、現在、最も多い割合を占めているのは、地下水である。
- 2 埼玉県内の市町村の水道水は、全て県営浄水場から供給されている。
- 3 埼玉県企業局では、地盤沈下を防ぐため、昭和39年に川の水を浄化した工業用水道の工場への供給を開始した。
- 4 工業用水道がひかかれているのは、県南東部の8市である。

問28 埼玉県の水産業に関する記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 内水面とは河川、用排水路、池沼をさしている。
- 2 内水面においては、漁業協同組合に限らず、誰でも漁業を営むことができる。
- 3 埼玉県内の漁業協同組合に免許されている魚種は12である。
- 4 内水面では自然の生産力が低く資源が枯渇してしまう心配があるため、漁業協同組合に漁業権を免許する際には、魚類資源の増殖を義務付けている。

問29 次のアからエのうち、環境基本法で定義されている公害の組合せとして、正しいものを一つ選びなさい。

ア 大気汚染

イ オゾン層の破壊

ウ 酸性雨

エ 水質汚濁

1 ア イ

2 イ ウ

3 ウ エ

4 ア エ

問30 水質汚濁防止法に関する記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

1 県は、生活排水対策に係る広域にわたる施策の実施及び市町村が行う生活排水対策に係る施策の総合調整に努めなければならない。

2 何人も国又は地方公共団体による生活排水対策の実施に協力しなければならない。

3 生活排水対策重点地域は、環境省が指定するが、県内では、6流域が指定されている。

4 生活排水対策重点地域をその区域に含む市町村は、生活排水対策推進計画の策定及び推進を行う。

